

# 学内六報

2023.2.21

no. 1567



〈cubiSm〉 佐藤良祐 / 藤堂真也



東京大学制作展  
2022の出展作!



お世話になったあの方へ東大オフィシャルの贈り物を

## UTCC最新商品集

## 八重洲アカデミックcommonsとは?

お世話になったあの方へ東大オフィシャルの贈り物を

# UTCC最新商品集

The University of Tokyo Communication Center

マジック  
クリアファイル  
(銀杏葉)  
(並木)

各450円

社会とのコミュニケーション拠点として2005年に誕生したUTCC。研究成果を活用した商品やUTokyoマークの公式グッズを販売しています。年度末の贈答需要に応えるため、2021年以降の新商品を紹介し、商品開発に関わった二人の先生のインタビューも掲載しました。本郷赤門横のお店は平日10時30分～17時に来店OK。ネットショップはいつでも利用OKです。



UTokyo



utcc.u-tokyo.ac.jp

## 鷗外歿後百年記念一筆箋



肖像

各450円

本棚

## そえぶみ箋(鷗外文庫)

2022年に総合図書館で開催された「テエベス百門の断面図 歿後100年記念 森鷗外旧蔵書展」の記念グッズとして作られた、鷗外ゆかりのモチーフ入りそえぶみ箋。1枚に7行という仕様が絶妙に使いやすい美濃和紙の便箋です(封筒付き)。

新緑が黄葉に変化!

表面と内側のデザインの組み合わせにより、白い紙を入れると色が変わって見える不思議なクリアファイル。安田講堂&銀杏の葉のパターンと、安田講堂に向かう銀杏並木の写真風デザインの2タイプ。どちらも銀杏が新緑から黄葉に劇的に変化!



## 太古の蓮に思いを馳せて

蓮香ネイルオイル  
1,650円



東京大学出身の植物学者・大賀一郎博士の名を冠した大賀蓮。その香りを再現した人気の蓮香シリーズから、ロールオンタイプのネイルオイル(容量8ml)が誕生しました。生命の神秘を感じさせる清らかさを織り込んだ爽やかでやさしい香りです。指先に塗ることで奥深くまで浸透し保湿されます。蓮香シリーズのハンドクリーム(980円)とセットにしてのプレゼントもおすすです。



## MONO × UTokyo

本郷建物柄  
シャープペンシル(紺)

880円

安田講堂、赤門、総合図書館と本郷構内の雰囲気をデザインしたシャープペン(トンボ鉛筆)。側面にUTokyoマークが印字されたオリジナル商品です。軸を上下に振って芯を出す「フレロック機構」、クリップを押上げるとフレロックが固定される「フレロック」機能も搭載し、筆箱内での誤ノックを防げます。クリップを押下げて芯を出すことも可能です。



東京大学のオフィシャル勝負ネクタイ



東京大学オフィシャルネクタイ  
ワイドストライプ 各15,000円

銀座田屋の制作による、スクールカラーの淡青をイメージした新柄シリーズです。従来品より細いシルク糸を使用し(朱子織)、高級感のある艶と輝きとともにボリューム感のある生地に仕上げました。剣先の裏には大学のロゴがあしらわれ、濃紺地のストライプには細かい銀杏のデザインも施されています。式典や学会、就職活動など、大切なシーンで着用いただきたい東京大学の「勝負」ネクタイです。



# “野生のワイン酵母で醸し、 オーク樽で熟成させた、 大学ならではの日本酒です”



農学生命科学研究科特任教授  
微生物潜在酵素(天野エンザイム)  
寄付講座

尾仲宏康

純米吟醸  
尾仲

3,300円(税込)

2020年からはccPTM18一本にしました。

## 燻製香のない珍しいワイン酵母

ワイン酵母を日本酒に使うことはあまりありません。ワイン酵母には燻製のような香りがある場合が多く、日本酒に使うと気になる香りになりがちです。ところが、ccPTM18にはたまたま燻製香がありませんでした。

ビンテージものに価値がつくワインやウイスキーと違い、日本酒では新酒が尊ばれますが、「尾仲」はワイン用オーク樽で半年から1年ほど寝かせた熟成酒です。近年、日本酒でも熟成酒という分野ができていますが、向き不向きがあり、大吟醸酒などは熟成させても逆効果なようです。酸味が強い酒のほうが、熟成で深みが出ると言われます。ほどよい酸味が特徴的な「尾仲」は熟成酒に向いていると思います。

この酒をUTCCでという話が始まったのは2021年11月。2022年5月に運営委員会に臨み、試飲会を経てGOサインをもらいましたが、もともと酒に向きそうな名前はどれも商標を取られていたために苗字にした経緯があり、酒名も継続となりました。

研究室の大先輩にあたる坂口謹一郎先生が亡くなったとき、私は学生として葬儀の手伝いをさせていただきました。坂口先生は退官後に『日本の酒』という本を書いてお酒博士と呼ばれました。この本には熟成させた日本酒もいと書いてあります。大先輩も推していた熟成酒をUTCCで出せたことに感慨を覚えます。「尾仲」はいわゆるきれいな日本酒ではなく、日本酒の幅を広げる大学らしい日本酒だと自負しています。

「お米は富山の五百万石です。洋風のおつまみで冷やで飲むのもおすすめ」と尾仲先生。



## 麦芽から発見した野生酵母が元

富山県立大学にいた頃、地元産の野生酵母の探索を始めました。酵母は随所に存在しますが、目に見えず、候補になるものを培養して初めて姿が確認できます。果物や花の蜜など糖分が多い環境にいることが多いですが、たいていは発酵力が弱くて酒造りに向きません。あるとき、地ビール会社から預かった大麦麦芽で実験した余りを培養したところ、たまたまよい酵母が見つかりました。実家が蔵元(成政酒造)の研究者が同じ学科にいた縁で、2012年に「尾仲」が生まれ、クラウドファンディング(CF)を活用して醸造と販売を続けてきました。

市販の日本酒の多くに日本醸造協会が配布する酵母が使われており、だいたい風味が似通います。でも、野生酵母だと違う風味の酒ができます。野生酵母で商業レベルの酒を造るのは、蔵元にとっては大きなリスクですが、大学なら利益を出す必要はないし、微生物の扱いはお手のもの。野生酵母を使う酒造りは大学向きだと思います。

私は2012年に東大に来て、研究室旅行で足利のワイナリーを見学しました。ワインでも協会酵母を使うのが普通ですが、ここは葡萄を潰して自然に発酵する形にこだわっています。ワインにどんな酵母がいるのか知りたいと言われ、研究室で分析すると、発酵が進むにつれて酵母が入れ替わっていました。アルコール度数が15%程度になったときの酵母を分離し、ワイナリー名と葡萄名と分離年からccPTM18と名付けました。大麦麦芽の酵母とccPTM18を使って各々仕込み、2019年にCFに出したところ、後者のほうが好評だったので、



1月31日、尾仲先生、ココ・ファーム・ワイナリーの池上知恵子さん、成政酒造の山田雅人さんの3人が、「境界を越えた酵母のうまみとは？」と題するイベントを渋谷QWSで行いました。



“演習林が生む年2万m<sup>3</sup>もの木材をキャンパスの内外でもっと活用するために”



床に木材が敷き詰められた蔵治先生の研究室

農学生命科学研究科教授  
附属演習林企画部長  
森林流域管理学研究室

蔵治光一郎

## 演習林のおはし (大)(小) 田無シラカシ

各2,400円 (税込)

### 演習林箸シリーズ第2弾

田無演習林のシラカシで作った箸を11月から販売しています。北海道演習林のウダイカンバ箸に続くシリーズ第2弾です。

演習林の目的は教育研究であり、持続可能な森林管理の研究のために生産する木材を市場に出荷しています。田無のシラカシは、直径44cm、高さが約22mの巨木で、大きくなりすぎたために伐採したものです。丸太を何かに使えないかと考え、候補に上がったのが箸でした。

どの木でも箸にできるわけではありません。細長くて加工が簡単ではなく、ある程度の強度も必要です。業者さんに提案しても、木の名前を伝えただけで断られたり、加工してみてもダメだという場合もあります。以前の例では、サワラは前者、ユーカリは後者でしたが、幸いシラカシはうまくいきました。

演習林は毎年約2万m<sup>3</sup>もの木材を産出しますが、そのほとんどは市場に出るとラベルが消え、産地がどこなのかわからなくなります。大量消費の時代にはそれでもいいですが、消費者が価格以外の商品価値を意識して選ぶ時代になると、どこで誰が育てた木材なのかというラベルがあったほうがいい。多くの木材は産地がわからない状態で流通しますが、そこを変えないと林

業は辛くなる一方です。苦勞して切り出しても買い叩かれる状況だと持続できなくなる……。そんな思いを持っていた約5年前、UTCCから打診をもらいました。実は以前、環境三四郎<sup>\*</sup>の学生が農学部に行った関係で、千葉演習林の木材で箸を作って生協で販売したことがあり、箸の商品化への道筋はだいたいわかっていました。箸の会社と知り合い、機会があったら演習林で記念品を作ろうと思っていましたが、せっかくならUTCCでもと考えて商品化を決めました。

幸い売れ行きは好調で、ウダイカンバ箸は追加発注しました。特に外国人のお客さんに人気があります。シラカシ箸では、身近な住宅地の近くでとれた木できていることに価値を感じてもらっているようです。木目や色合いはもちろん、手で一本ずつ削るので質感も各々違います。

富士癒しの森研究所のミズナラを次の候補にしており、すでに試作も行いました。その次は生態水文学研究所のヒノキを準

備しています。その後は未定ですが、できたら7つの演習林それぞれの箸をと思っています。

### 野球部のバットになる!?

これまでは演習林の木材をあまり活用できていませんでしたが、まず学内での活用を進めたいです。私が学生の頃は机も椅子も床も木製が主でしたがいまは少ないですね。それを置き換えられないかと考えています。昨年末から受注生産の学内受付を始め、科所長会議でご案内しました。計画的に木材を伐採し在庫する必要があるの、倉庫を用意して備蓄を進めています。

最近、野球部のバットの試作も始めました。試合用はいろいろと基準があって難しいですが、練習用なら可能性があります。野球部が演習林のバットで練習して勝ち点を得たら最高ですね。

キャンパス面積の99%を占める演習林から出る木材を使わない手はありません。演習林の木材を扱うベンチャーなども出てきてくれるとうれしいですね。



工学部5号館の51講義室には秩父演習林の木材(ミズナラ、ブナ、ウダイカンバ、スギ)でできた講義台(写真)が。そのほか、本郷・学生支援センターの表札(千葉演習林のケヤキ)、弥生・農正門の銘板(北海道演習林のイチイ)、農学部3号館の学生サービスセンターや大講義室の壁(北海道演習林のウダイカンバ)でも演習林の木材が使われています。

職員が撮影した田無演習林の四季折々の写真が箸の台紙に使われています。



<sup>\*</sup>環境問題に取り組む学生団体

首都の玄関口に生まれた東大のサテライト拠点

# 八重洲アカデミックコモンズとは？

三井不動産と締結した産学協創協定により2020年に発足した三井不動産東大ラボ。その活動の成果の一つが、東京ミッドタウン八重洲の4階に位置する八重洲アカデミックコモンズです。一から事業を練り上げてきた担当理事、昨年10月に始まった教育プログラム第一弾のスクール長のお二人に、コモンズの概要、これまでの活動、今後の展望について語っていただきました。

巨大ホワイトボードを設えたフロアからは、辰野金吾手がけた東京駅舎や東大祭の光触媒技術が使われた「グランルーフ」が一望できます。



理事・副学長  
相原博昭

新領域創成科学研究科長  
／スマートシティスクール長  
出口 敦

## 三井不動産の「場」+東大の「知」

**相原** 八重洲アカデミックコモンズは、2019年に協定を結んだ三井不動産との産学協創活動の成果です。東京駅を一望するサテライト拠点であり、UTokyo Compassが掲げる「場をつくる」の具現化の一端です。三井不動産が場を、東大が知を提供することにより、都市の価値の再定義、未来の都市像の提案、「経年優化する都市を担う人材育成などを、三井不動産東大ラボとして進めています。

**出口** 三井不動産と東大は、これまで柏キャンパスが位置する柏の葉地区において、柏市や関連機関とともに柏の葉スマートシティ構築に取り組んできました。今ではわが国を代表するスマートシティのモデルとなっています。そうしたご縁がこの産学協創につながっています。

**相原** 三井不動産の八重洲開発の中核に東京ミッドタウン八重洲があり、リスクリング教育の機能を加えたいということから東大に打診をいただきました。鉄道で来やす

いだけでなく、バスターミナル直結で空港からの便もよい八重洲での活動の第一弾が、昨年10月開講のスマートシティスクールです。社会人対象の活動では近郊からのアクセスのよさが重要で、八重洲には大きな地の利があります。ただ、活動場所は八重洲だけではなく、八重洲を軸に東大のキャンパスの多様性を活かしています。

**出口** スマートシティスクールの授業は座学と滞在型活動に大別され、前者は八重洲、後者は主に柏が舞台です。柏では研究室見学に加え、生産技術研究所・須田研究室の協力による自動運転バスの試乗やスマートシティの見学もあり、参加者は柏の葉で合宿を行います。議論を重視するために対面を基本とし、定員は1コース20人。八重洲を会場とする90分の授業は、講義と議論が半々で、関連分野の先生方を講師にお迎えし、15週で約30コマを実施します。合宿はスマートシティに力を入れている地方都市でも行います。

## 社会へ染み出す大学の先駆として

**相原** これまではキャンパスに来てもらうのが普通でしたが、いまは東大のほうから社会へ出ていくことも重要です。UTokyo Compassが掲げる社会への染み出しです。場所も時間も限られているので、八重洲に限らずに様々な取り組みを重ねないとはいけません。場として染み出し、教育の対象も染み出す。八重洲のやり方が他にも広がることを期待しています。

**出口** グループ演習では、対象都市のスマートシティ実行計画を立案し、対象市役所の職員も参加する講評会で発表します。実施の計画に活かしたいので市役所で提案いただきたいと言われたグループもありました。企業・官公庁から派遣された参加者を通じて東大と企業・官公庁がつながる好機となり、講師の先生との交流など、新たな展開も芽生えています。

**相原** この場は東大が独占するわけではありません。三井不動産東大ラボとしては、連携するアカデミアにも場を提供する方針です。大学が社会から求められる教育リソース開放のための最適な場として活用してほしいと思っています。シンポジウムやセミナーも適宜開催しているほか、教育プログラムの第二弾は生産技術研究所が担当するデザインスクールで、5月からの開講を予定しています。他にも複数部局から手が挙がっており、検討を進めています。

**出口** 当研究科では、サステナブル・ファイナンスやライフサイエンスに関するプログラムも企画しているところです。

**相原** 場所も時間も限られるので、人気が出すぎると学内で競争になるかもしれませんが、そのような嬉しい悲鳴が出る状況は、担当理事としては大歓迎ですね。



スマートシティスクール第二期の開講式では藤井輝夫総長が挨拶を行いました。



# 海と希望の学校 in 三陸

第24回

岩手県大槌町にある大気海洋研究所附属国際・地域連携研究センターを舞台に、社会科学研究所とタッグを組んで行う地域連携プロジェクト——海をベースに三陸各地の地域アイデンティティを再構築し、地域の希望となる人材の育成を目指す文理融合型の取り組み——です。5年目を迎え、活動はさらに展開していきます。

## 赤浜の青い鳥

岩手の沿岸部で生活していると、夏の朝、イソヒヨドリという鳥が、美しくさえずっていることに気づきます。オスは頭から胸、背、腰までが青藍色、腹は赤褐色をした綺麗な鳥です（写真1）。

これまで、この事業では地域の小ネタ、いくなれば青い鳥を探してその魅力を地域の方々と共有し、地域に誇りを持ってもらう活動を展開してきました。数年前、小ネタをたくさん集めて地図にしました。けれど、できたと思ったら抜けていた小ネタが湧いてきて、すぐに更新する必要が出てきました。もっと賑やかな地図をと考えていた時、地域のレクリエーションを通じて小国夢夏さん（大槌町観光交流協会）と知り合う機会を得ました。

小国さんは幼いころよりセンターのあ

大気海洋研究所附属国際・地域連携研究センター  
地域連携研究部門（大槌研究拠点）准教授

北川貴士



写真1：イソヒヨドリ



る赤浜地区にお住まいでしたので、これ幸いと地域の小ネタを探るべくいろいろ尋ねてみました。その中で小学生の頃、友達とどんな遊びをしていたかという質問をしたところ、「赤浜小学校からの帰り道、センターの前を通るときに『東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター』をだれが素早く言えるかゲームをやっていた」と答えてくれました。学部・学科等の名称が自由化されて以降、全国の大学のいたるところで組織名が寿限無化しました。その波はこの赤浜にも及んだわけですが、噛みそうになるその名称は、Eテレ番組を先取りしたかのような地域の小ネタにもなっていました。これまで地域の誇りになる“大きな”小ネタばかりを追いかけて沿岸を駆けずり回っていました。しかし、何てことはない、実に身近なところに青い鳥

たことを感じ取りました。

これから暖かくなってくると、また、センターのバルコニーでイソヒヨドリがさえずるようになります。今年度でこの文理融合型事業「海と希望の学校 in 三陸」は終了しますが、沿岸での青い鳥探しはまだまだ続いています。



2019年4月より2か月に1度お届けしてまいりました「海と希望の学校 in 三陸」の連載は、本稿をもって終了となります。おつきあいいただき、ありがとうございました。来年度からは「(仮) 海と希望の学校～被災地から全国へ」というタイトルで皆様にさまざまな地域の小ネタをさらにお届けしていく予定です。楽しみにしていただいください。



写真2：三陸小ネタ地図



迎える当センターが、半世紀を経てようやく赤浜の方々に小ネタにしてもらえるぐらいに認識してもらえるようになっ



写真3：センター玄関にあるロゴマーク



「海と希望の学校 in 三陸」公式 Twitter (@umitokibo)

制作：大気海洋研究所広報戦略室（内線：66430）



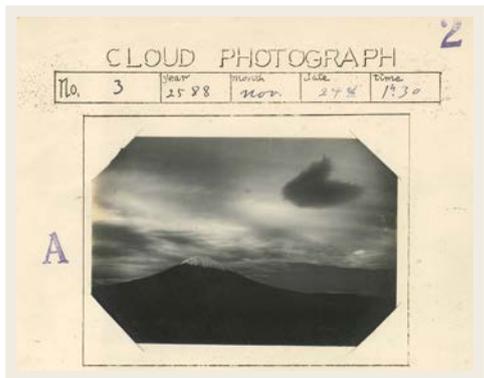
## デジタル万華鏡 第33回

東大の多様な「学術資産」を再確認しよう

総合研究博物館  
特任助教

白石 愛

## 気象を映像に捉えた「雲の伯爵」



観測所竣工直後の観察記録 (IMTM\_AB0000010\_G-210)

富士山にかかる雲に魅了され、静岡県御殿場市に私立観測所を設立して、気象観測を続けた一人の伯爵がいました。後に「雲の伯爵」と称された気象学者の阿部正直（1891-1966）です。阿部は備後国福山藩最後の藩主正桓の長男で、幼少期に日本で初めて上映された「活動写真」（キネマトグラフ）を観て以来、活動写真に興味を持ち、10代でカメラを自作するほどでした。

1926（大正15）年、御殿場市二ノ岡で後に自身が「翼雲」と名付けた吊し雲を観測したことを契機に、笠雲や吊し雲といった特殊な雲のかかる孤高の山、富士山を本格的に研究対象とするに至りました。観測は通常の写真撮影に加え、齧落とし撮影による動画や2地点から同時撮影する立体写真を取り入れたことが、阿部の研究を独創的なものとなりました。また、自宅に風洞実験施設を作り、富士山の模型と気流実験装置によって雲の発生の再現実験を行いました。それらの研究成果により、1941（昭和16）年に主論文「山雲の形と気流」で東京帝国大学より理学博士の学位を取得しています。

阿部正直が遺した膨大なコレクションは2013（平成25）年に総合研究博物館へ寄贈されました。同コレクションには、多様なサイズの紙焼き写真の他、ガラス乾板写真、フィルム、撮影機器や実験器具などの物品類、膨大な研究資料、図書、原稿類、学術雑誌、私物が含まれています。大正末期から昭和初期にかけての気象学コレクションとして重要であるとともに、映像技術の資料体としても極めて貴重な資料群といえます。

阿部正直コレクションの一部は平成29年度東京大学デジタルアーカイブズ構築事業の成果の一環としてデータベース化され、総合研究博物館データベースで公開されています。現在は「気象観察記録」と「フィルム」のみですが、順次追加掲載していく予定です。多様な雲の形をご堪能ください。

<http://umdb.um.u-tokyo.ac.jp/Dlmt/AbeCollection/list/recordlist.php>

蔵出し！  
文書館The University  
of Tokyo  
Archives

第42回

収蔵する貴重な学内資料から  
140年を超える東大の歴史の一部をご紹介します

## あなたの学部は何色ですか？

1963（昭和38）年11月13日、第90回薬学部教授総会では、1枚の資料を眺めながら「学部のカラー表示」について議論していました。前月に学内で開催された運動会で、当日は「一応濃紺を使用」した薬学部にも、学生部からカラーを「決定してほしい」と依頼がきたのです。その時の資料が写真の文書です（S0259/SS01/0010「教授会・教授総会議事録 昭和38年）。法

| 学部を表わす色     |     |
|-------------|-----|
| 法 学 部       | 緑 色 |
| 医 学 部       | 赤 色 |
| 工 学 部       | 白 色 |
| 文 学 部       | 桃 色 |
| 理 学 部       | 緑 色 |
| 農 学 部       | 紫 色 |
| 経 済 学 部     | 青 色 |
| 教 養 学 部 文 科 | 黒 色 |
| 理 科         | 黄 色 |
| 教 育 学 部     | 橙 色 |
| 薬 学 部       |     |

学部は緑色、医学部は赤色……と列記され、最下段に薬学部があり、議論の結果、「エンヂ色」が記入されました。そして現在も「胭脂色」は引き継がれ、学部公式パンフレットに決定経緯

が議事録の記述をもとに紹介されています。

東京大学のスクールカラー「淡青」は、1920（大正9）年の東京帝大・京都帝大による第1回對抗競漕（レガッタ競技）に由来すると有名ですが、各学部「カラー」の経緯は詳細不明なものも多いようです。この資料の色も、同窓会の名称等に反映され納得の部局もある一方、意外な印象のものもあると思います。

これら学部カラーの淵源を探ると、やはり分科大学（現在の学部に対応）對抗漕艇にヒントがありそうです。この競技の歴史は古く、明治中期には盛んに競漕会が行われ、ときには皇太子の臨席もあり、多数の教員・学生、見物人でにぎわいました。法科・医科・工科などは、コース色の固定化とともにユニフォームも色を統一し、各応援団も同色を掲げ、観客も各々最頂の色の小旗をふり「緑よ」「赤よ」と声援を送って、チームカラーが浸透していた様子が当時の新聞にもうかがえます。

「白色を合印」とする工科は、1890（明治23）年の大会に際し「白薔薇花の簪」を製作、販売もしました（『東京帝国大学漕艇部五十年史』より）。1963年も工学部は「白色」となっていますが、現在のロゴは異なるカラーを使用しています（『淡青』第36号）。この経緯も興味深いところです。

文書館では、こうした学部カラーの由来と変遷について調査を進めており、次年度の『東京大学文書館ニュース』で成果をご紹介します予定です。乞うご期待！

（助教・秋山淳子）

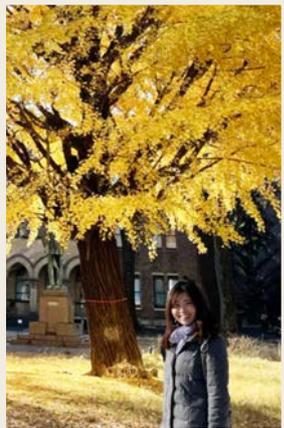
## ワタシのオシゴト 第201回

RELAY COLUMN

理学系研究科等学務課  
国際チーム主任

杉江祐里

## 新生 国際チーム



出勤途中のお気に入りスポット。毎朝癒されます

国際チームは、元々は国際化推進室という別の組織でしたが、今年度から学務課の傘下に入り、留学生関連の業務に携わっています。

今年度4月より異動してきて、まず驚いたことが、理学部内のプログラムの多さ！そして、行き交うメールが、

ほぼ英語！初めて携わる国際系のお仕事で、戸惑うことも多いですが、チームや周りの方々に助けていただきながら、試行錯誤の毎日を送っています。

今年（2023年）の夏には、理学部の看板であるサマープログラムUTRIPが、3年ぶりに、対面で開催されます。海外からの学生を無事に受け入れられるように、現在準備の真っ只中です。

お昼休みは、不忍池まで、毎日走っています。四季の変化を感じながら日々ランニングしていると、とてもリフレッシュされます。

プライベートでは、マラソン大会に参加したり、最近ではパン屋さん巡りにはまっています。直近では3月の渋谷・表参道ウィメンズランに出走予定で、完走記念のアクセサリが今から楽しみです♪笑



近場の陸上競技場。お天気の良いと富士山が見えます

得意ワザ：おいしいようなパン屋さんをみつけること！  
自分の性格：おおざっぱだけどおおらかなO型です笑  
次回執筆者のご指名：中野まさきさん  
次回執筆者との関係：テニス仲間で同期  
次回執筆者の紹介：行動力があって頼りになります！

ぶらり  
構内ショップの旅

第12回

kitadoko @本郷キャンパス の巻

## 夏目漱石の小説にも登場

本郷キャンパスの法文2号館地下一階で営業する美容院、「kitadoko」。お店のルーツは、夏目漱石の小説「吾輩は猫である」にも登場する理髪店「喜多床」。約150年くらいまえに、現在の本郷郵便局付近で開業したそうですが、その後のれん分けする形で本郷キャンパス内で営業を始めたそう

です。この店で10年以上東大生や教職員の髪をカットしてきたヘアスタイリストの小沢泰子さんは、「今ではテスト期間や論文の提出時期など、学生の年間スケジュールをすっかり把握してしまいました」と話します。男子学生からのリクエスト



ヘアスタイリストの小沢泰子さん

で多いのが「勉強や実験などの邪魔にならない髪型」だとか。「個性的な髪型ではなく、いわゆる『普通』のすっきりとした髪型でしょうか」と小沢さん。カウンセリングをしっかりと行い、普段の生活や、ヘアケアなどを聞いた上で、それぞれ髪質や髪の量などにあったスタイルを提案しているそうです。

kitadokoが力を入れているのがヘッドスパ（15分コース1650円、30分コース4400円）。頭皮の状態に合わせて、毛穴のクレンジングや美容液を使ったマッサージなどを行い、頭皮環境を整えていくそうです。「健康な髪を育てるためには、土台となる頭皮ケアをしっかりとすることが大切です。そうすることで、髪が健康にきれいに育っていき、薄毛予防なども期待できます」と小沢さんは話します。寝不足やストレスのためか、頭皮が固くなっているお客さんが結構いるそうで、マッサージなどで頭皮だけでなく、心もリラックスしてもらえればと考えているそうです。「学生さんだと、床屋しか行ったことがなく、美容院だと緊張しそうだと言っている人もいますが、気軽な気持ちにいらしてください」



オフホワイトが基調の店内。来店時に次回の予約をすると10%引きに（通常カット料金4950円）

営業時間●  
10時～19時（定休日：火・水）

電話：03-3815-8410

<http://kitadoko.jp/homebase/>

# インタープリターズ・第186回 バイブル

総合文化研究科客員教授  
科学技術インタープリター養成部門 **小松美彦**

## 「三笥の1ミッ」から大学を考える

「よく居たオマエ!!」。「来ると思った!!」。昨年開催されたサッカーのワールドカップで、日本が優勝候補の一角スペインを倒し、決勝トーナメント進出を決めた時、三笥選手と田中選手が叫び合った言葉である。

前半を0対1で折り返した日本は、後半3分、堂安の弾丸シュートで追いついた。そしてその興奮もさめやらぬ2分半後にそれは起こった。右サイドでボールを受けた田中が、前線の堂安に縦パス。堂安はゴール前へと低いクロス。そこで前田がシュートを狙い疾走するも、間に合わない。ボールはゴールラインを割るかに思えたが、前田の外側をさらに駆け上がった三笥が、必死に左足を伸ばしてライン際で折り返した。ゴール前には先の田中が詰めており、右腿で押し込んだ。しかし、「ライン際」がビデオ判定となった。

三笥が折り返した際、ゴール前の状況を見る余裕はなかった。また、他の選手には、三笥がクロスを戻せるとは思えなかったはずである。だが、三笥は誰かが走り込むことを、田中は三笥が折り返すことを、いずれも信じ、奇跡がもたらされた。判定の結果、ボールはわずかにライン上に残っており、「三笥の1ミッ」と言われる決勝弾となった。かくて試合終了の笛とともに、二人は抱き合い、冒頭の叫びを交わしたのであった。

テレビに釘づけになっていた私には、ある説話が想起された。『今昔物語集』の「馬盗人」である。

名馬を譲り受けんと源頼義が父・頼信を訪ねた日の夜、馬盗人に名馬が連れ去られた。寝入っていた頼信は騒ぎをかすかに耳にすると、馬にまたがり一人で賊を追った。頼義もまた下人の声を聞くや否や、やはり単騎で追走した。途中、頼信は「我が子は必ず追ってくる」と、頼義は「父は必ず前を進んでいっしやる」と信じ、馬を駆った。やがて夜盗は逃げおせたと安堵し、水場で馬を歩ませていた。頼信は闇中にその音をのがさず、頼義が駆けつけていることを確かめせぬまま、「射よ、あれぞ」と叫んだ。すると弓の音が響いた。こうして名馬を取り戻した父子は、何事もなかったかのように屋敷へと戻り、床に就いたのであった。

コミュニケーションとは何か。「三笥の1ミッ」に、「馬盗人」の説話に、その奥義があるだろう。翻って、漫画「気まぐれコンセプト」(『スピリッツ』22.11.14号)は、就職のためのOB・OG訪問の今昔を描いている。「CMを作りたいと思ったキッカケは」の質問を機に、昔は話が弾んだ。だが、昨今は次の応答がなされがちで、殺伐としているという。「そういう人の心の中が一番大切な部分に土足で踏み入る質問って、どうなんですか」。はたして、現在の大学はいかがであらうか。

# ききんの き

寄付でつくる東大の未来

第40回

本部渉外課卒業生チーム  
特任専門職員 **庄司英里**

## 卒業生と母校をつなぐTFT

“TFT”をご存知でしょうか？本部渉外課卒業生チームで管理している、全学で唯一部局を横断する卒業生データベースです。本人登録による卒業後の個人情報を持しており、現在約7万人が利用しています。主な対象は卒業生ですが、在学生、教職員も登録することができ、TFTメンバー限定の特典もあります。

渉外課が所属する社会連携部は、公開講座などのリカレント教育プログラム、ホームカミングデイといった卒業生向けイベント、そして教育や研究を支援するための基金の設置など、社会と東大をつなぐ活動を行っています。その中でTFTが果たす役割は、社会で活躍する卒業生に母校とのつながりを感じつつけてもらうこと、同窓生同士のネットワークづくりの場を提供することです。「東大の今」をテーマに、最新の研究成果やイベント情報、そして母校支援のお願いなどをメールマガジンでTFT登録者に毎月お届けしています。

他大学に比べると「東大生には母校愛がない」と言われているようですが、毎年10月に開催するホームカミングデイでは、安田講堂や銀杏並木が学生時代を懐かしむたくさんの方々の卒業生で賑わいます。また、イベント運営への協力や、研究・学生支援などへの寄付のお願いには卒業生の方々から多くの応援が集まります。

「母校とつながったことで、東大のすばらしさを改めて感じている」という感想をいただきます。自分の出身校が好き、と感じてもらうことは素敵なことですし、大学側にとっても卒業生という一番の理解者を得ることは喜ばしいことです。卒業生に向けて母校の魅力を発信し続けていくことが、東大ファンのさらなる獲得につながっていくと考えています。

東大の財産ともいえる卒業生のデータベースTFTを全学で有効に活用していただくため、卒業生チームでは部局イベント情報のメルマガ掲載や、卒業生宛お知らせメールの代理発送なども行っています。

ところで、なぜ卒業生データベースが“TFT”なのか？お知りになりたい方は卒業生チームまでお尋ねください。



懐かしいキャンパス風景と最新ニュースを毎月メルマガで配信中



TFT登録はこちらから

東京大学基金事務局(本部渉外課)  
kikin.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

**トピックス** 全学ホームページの「UTokyo FOCUS」(Features, Articles) に掲載された情報の一覧と、そのいくつかをCLOSE UPとして紹介します。

| 掲載日   | 担当部署・部局                    | タイトル (一部省略している場合があります)                 |
|-------|----------------------------|--|
| 1月13日 | 本部広報課                      | 令和元年度・令和2年度・令和3年度退職教員の最終講義のお知らせ        |
| 1月13日 | 数理科学研究科                    | 数理科学研究科設立30周年記念式典・コンサートを挙行             |
| 1月16日 | 本部広報課                      | 令和4年度退職教員の最終講義2月開催分のお知らせ               |
| 1月16日 | 工学系研究科・工学部                 | 3Dコンクリートプリンティングの産学連携デザインコンペを開催         |
| 1月17日 | カブリ数物連携宇宙研究機構、宇宙線研究所、物性研究所 | 第7回「やっぱり物理が好き！」を開催～物理に進んだ女子学生・院生のキャリア～ |
| 1月20日 | 広報室                        | 藤井総長らの研究チームの研究論文が「Nature」に掲載されました      |
| 1月23日 | 本部入試課                      | 令和5年度第2次学力試験出願状況速報                     |
| 1月27日 | 広報室                        | 特別対談 ウェルビーイングの追求 企業と大学にできることは何か        |
| 1月31日 | 広報室                        | ロシア・ウクライナ戦争とナショナリズム                    |
| 2月1日  | 本部学生支援課                    | 七大戦冬競技が終了！東大は暫定1位に                     |
| 2月1日  | 理学系研究科・理学部                 | 合田圭介教授が米国科学振興協会(AAAS)フェローに選出           |
| 2月3日  | 史料編纂所                      | 地震史料シンポジウムII「災害史料研究が拓く歴史学の新たな方法」を開催    |
| 2月6日  | 広報室                        | 希有なゲルの医療展開を目指して/Entrepreneurs 18       |
| 2月8日  | 本部広報課                      | 令和4年度退職教員の最終講義3月開催分のお知らせ               |
| 2月8日  | 本部国際研究推進課                  | 東京大学 フランス国立科学研究センター 共同研究プログラムについて      |

## CLOSE UP 藤井総長と経済同友会の櫻田代表幹事が対談を実施 (広報室)



12月12日、櫻田謙悟経済同友会代表幹事と藤井輝夫総長による対談が行われました。経済同友会の広報誌『経済同友』の特集企画の一環で、タイトルは「ウェルビーイングの追求 企業と大学にできることは何か」でした。前半は、東京大学が取り組む「UTokyo Compass」ならびに、経済同友会が提唱する「生活者共創社会」をもとに、通底する共

通認識へと話が進みました。後半では、新しい社会づくりに向けた考えを交わし、経済と国民の幸福度やウェルビーイングの向上を両立する将来へ共に踏み出すことの重要性が確認されました。多様性や包摂性、あるいは学びの時間の多様化、という観点から、大学と産業界の連携可能性、今後の協働について意見交換がなされました。

## CLOSE UP JR内房線太海駅に学生デザインのベンチが! (工学系研究科・工学部)



建設用3DCPによる実施デザインコンペは国内初の試みでした

工学部の建築学科と社会基盤学科が合同開講した授業で、建設用3Dコンクリートプリンティングによる実施デザインコンペが行われました。JR東日本及び事業者4社(會澤高圧コンクリート、Polyuse、クラボウ、日揮グローバル)との産学連携によるもので、テーマはJR内房線の太海駅(無人駅)に設置するベンチでした。メンテナンスフリーであ

ること、塩害に耐えられることなどが条件となりました。5月の一次選考、7月の二次選考を経て、會澤高圧コンクリート+本学学生チームによる「後ろ髪を引かれるベンチ」が最優秀案に選出されました。製造、性能試験を経て設置されたベンチは12月14日に供用が開始されました。太海駅にお立ち寄りの際にはぜひご利用ください。

## 表紙について

情報・メディアアート分野の専門家である教員の監修のもと、学生が中心となって作品制作と運営を行う東京大学制作展(主催:情報学環・学際情報学府)。今号の表紙は、昨年11月開催の制作展2022「Emulsion」(<http://www.iiixhibition.com>)に出展された、佐藤良祐さん(教養学部理科二類2年/情報学環教育部1年)と藤堂真也さん(工学系研究科修士課程1年/今井公太郎研究室)の二人による作品、

《cubiSm》です。実空間に鏡を置いて3Dスキャニングを行うと、データが混ざりあって現実にはありえない不思議に歪んだ空間が出現します。それを修正すべきバグと見なすのではなく、人には見えないが3Dスキャナーなら捉えられるユニークな新世界だと看破したのが佐藤さんと藤堂さん。普及が進みつつある3Dスキャニングに大きな鏡を組み合わせたアイデアが、キュビズムの歴史に新しい風を吹き込みます。





**CLOSE UP 第7回「やっぱり物理が好き!」を開催**

(カブリ数物連携宇宙研究機構、宇宙線研究所、物性研究所)



今回は43名の参加がありました



SpatialChatを用いた交流の様子

11月19日、第7回目となる「やっぱり物理が好き! ~物理に進んだ女子学生・院生のキャリア~」をオンラインで開催しました。様々な講師の方をお招きしてキャリアパスを提示するとともに、参加者同士のネットワーク作りや物理学分野の魅力を伝える機会として行われてきたものです。森初果 物性研究所所長の開会挨拶の後、4人の講師が講演しました。講演の題名は、群馬大学准教授の鈴木真粧子さんが「見る前に跳べ」、旭化成の高田えみかさんが「昨日まで世界になかったものを」、神奈川大学特別助教の辻直美さ

んが「天の川銀河で最強の加速器とは?」、理学系研究科准教授の馬場彰さんは「星たちの熱い声を聴くと」でした。講演の合間には、物性研究所松永研究室博士2年の中川真由莉さんの案内で極限コヒーレント光科学研究センター (LASOR) の紹介が行われ、閉会挨拶はKavli IPMUの村山斉教授が行いました。SpatialChatを用いた交流会も行われ、3研究所から4名の大学院生がTAとして参加者からの質問に応じました。参加者同士で交流したり、講師へ積極的に話しかけてさらなる質問を投げかける参加者の姿も見られました。



**CLOSE UP 合田圭介教授が米国科学振興協会フェローに**

(理学系研究科・理学部)



理学系研究科化学専攻の合田圭介教授が、米国科学振興協会 (American Association for the Advancement of Science; AAAS) フェローに選出されました。AAASは、人類のために、科学者間の協力を促進し、科学的自由を守り、科学における情報発信を行っている、1848年に設立された長い歴史を持つ学際的な組織です。著名な科学雑誌『Science』の出版元でもあります。AAASフェローは、

1874年に始まり、科学における研究及び教育、社会へのコミュニケーションなどに関して卓越した業績を持つ者で構成されており、世界各国のノーベル賞受賞者及びオピニオンリーダーが名を連ねています。合田教授は、バイオフォトンクス分野における多大な貢献、特に生物学・医学の問題を解決するための超高速イメージング及び超高速分光技術の開発が評価されての選出となりました。



**CLOSE UP 第62回七大戦の冬競技が終了! 東大は暫定1位に (本部学生支援課)**



第62回全国七大学総合体育大会、通称「七大戦」が、昨年12月9日に開幕しました。七大戦は、北海道大学・東北大学・東京大学・名古屋大学・京都大学・大阪大学・九州大学の七つの大学間で毎年行われる体育大会で、今回の第62回大会では東京大学が主管を務めています。12月、1月には、他の競技に先駆けてスケート部アイスホッケー部門、スキー部の冬競技2種目が実施されました。アイスホッケー部は見事全勝で第1位を獲得、スキー部は第4位という結果を収めました。アイスホッケー部主将は「主管校として一つの競技でいいスタートが切れました。前回の

第61回大会に続いての二連覇を果たすことができ、嬉しく思います」と、スキー部主将は「アルペン、クロカン、ジャンプと上級生を中心としてポイントを獲得することができました。来年の七大戦では下級生もポイントを獲得できるよう頑張りたいと思います」とコメントしました。以上の冬競技2種目の結果を得点換算した暫定総合成績では、現在東京大学が1位となっています。前回主管時以来7年ぶりとなる七大戦総合優勝に向け、順調な滑り出しを切りました。七大戦の情報は公式HP (<http://www.7univ-nanadaisen.jp/>) やTwitterでぜひチェックしてください。



**CLOSE UP シンポ「災害史料研究が拓く歴史学の新たな方法」を開催 (史料編纂所)**



研究者、自治体や企業の関係者、市民など139名の参加がありました

地震火山史料連携研究機構では、12月23日、地震史料シンポジウムII「災害史料研究が拓く歴史学の新たな方法」をオンラインで開催しました。近年、地誌や年代記など、これまで評価が定まっていなかった史料や外国語史料・金石文史料なども再評価し、災害史料として活用しようという動きが生まれています。今回のシンポジウムは、災害研究が歴史学の新たな方法を提起しているといえる状況を受け、2018年12月の地震史料シンポジウム「地域史料から地震学へのアプローチ」に続いて

開催したものです。

シンポジウムでは、地震学、歴史学、地質学、考古学の各分野で歴史地震および地震史料研究に取り組む研究者の発表8本の後、総合討論が行われました。発表では、様々な史料を活用した研究の成果が報告され、各分野の連携に伴う研究の進展が確認されました。討論では、史料のさらなる調査・分析と異分野連携によって地震像を明らかにすること、地震のほか水害などの災害にも研究を広げることへの期待などが示されました。



## 御殿下のプール

本郷の安田講堂から病院側に向かって少し歩くと、御殿下記念館がある。その地下にプールがあることをご存じだろうか。

よく晴れた土曜の午後、外でダンスをしている若者たちの横を抜けて階段を下る。入口でパスとひきかえにロッカーのカギをもらう。靴を預けてロッカーで着替える。シャワーを浴びてプールに立つ。自由レーンに入ってビート板でパタパタする。歩行専用レーンに移って筋肉をほぐす。中央レーンで水をかくと後ろに泡が流れていく。あっという間に時間がすぎる。泳ぎ終えて外に出るとアカペラの歌声がきこえる。そんな場所である。

御殿下のプールは、本郷キャンパスの中でも多国籍度が高い場所なのではないか。ずいぶんいろいろな国の留学生がいるような気がする。かつて採暖室（サウナ）がフル稼働していたころ、サウナでぼーっと座っていると、実にさまざまな言語が耳に入ってきた。コロナ前とちがっていまやロッカーでの会話はひそひそ声になったが、やはりいろいろな出身

の人がいると思う。私は男性ロッカーの様子しか知らないし、どの言語なのかもよくわからないのだけれど。

御殿下記念館は1988年に建設された。施設は古めになってきているものの、リノベーションのおかげで今も快適だ。プール特有の水のニオイも最近はなくなった。泳ぐ人が少ないときもプールの監視員の人が見守ってくれる。たまにごしごし掃除していて、その姿に頭が下がる。

不思議なのは、講義や演習で一緒にする学生さんたちと決して会わないことだ。東大生の多くはプールに通う習慣がないのか。それとも、私の乱視が進んで学生の存在に気がつかないだけなのか。あるいは、こっちが会っていない気がしているだけで、学生のほうでは「あいつがいる！」と気づいて逃げているのか。そうでないことを希望したいが。

増井良啓  
(法学政治学研究科)

